

感染症発生動向調査委員会報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報(警報発令基準値:定点あたり30.00)が昨シーズンより4週早く発令されました。流行が継続しています。
- 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。

全数把握疾患 1月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	7件
A型肝炎	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
デング熱	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
レジオネラ症	9件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	3件
急性脳炎	4件	風しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞1件(O157VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。

＜A型肝炎＞1件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路等不明です。

＜デング熱＞海外感染例が3件(タイおよびインドネシアでの感染)報告されました。全国で、11月以降国内感染例は報告されていません。

＜レジオネラ症＞肺炎型7件、ポンティアック型2件の報告がありました。これらの報告での関連性は現在までに確認されていません。各症例について引き続き感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件の報告があり、すべて国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。

＜急性脳炎＞4件の報告がありました。そのうち3件(乳児(予防接種歴無し)、幼児(予防接種歴無し)および学童(予防接種歴不明))は迅速検査でインフルエンザA型陽性でした。残るもう1件は幼児で病原体検索中です。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞5件の報告があり、4件は60歳代～70歳代で血清型はA群(感染経路不明)、もう1件は70歳代で血清型はG群(創傷からの感染)でした。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者3件、AIDS 3件、その他1件の報告がありました。すべて国内での感染で、うち6件は同性間性的接触、残る1件は性的接触による感染でした。

＜侵襲性髄膜炎菌感染症＞50歳代の報告が1件ありました。患者は集団での生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞14件の報告がありました。12件は60歳代以上で、そのうち3件(1件は2年前に接種。他は接種時期不明)で接種歴が確認できましたが、他は未接種か接種歴不明でした。2件は乳幼児(9か月、1歳)で、それぞれワクチン接種歴が3、4回有りました。

＜水痘(入院例に限る)＞90歳代の届出が1件ありました。予防接種歴は不明でした。

＜梅毒＞早期顕症梅毒 I 期2件、無症候期1件の報告がありました。すべて国内での感染で、2件は異性間性的接触、もう1件は同性間性的接触による感染でした。

＜風しん＞40歳代男性の報告が1件ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。

定点把握疾患

平成26年12月22日から平成27年1月25日まで(平成26年第52週から平成27年第4週まで。ただし、性感染症については平成26年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26-27年 週一月日対応表

第52週	12月22日～12月28日
第1週	12月29日～1月4日
第2週	1月5日～1月11日
第3週	1月12日～1月18日
第4週	1月19日～1月25日

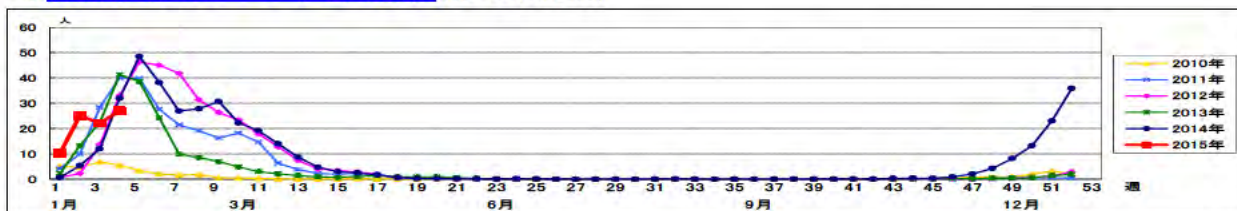
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、第1週より小児科定点:94か所、内科定点:59か所、眼科定点:22か所、性感染症定点:29か所、基幹(病院)定点:4か所の計208か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計153

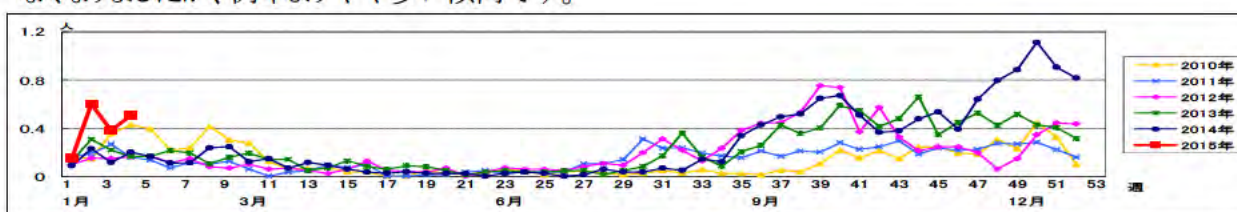
定点から報告されます。

＜インフルエンザ＞2014年第52週の定点あたりの患者報告数は、横浜市全体で35.83と、警報発令基準値30.00を上回りました。昨シーズンより4週早い警報発令です。年末年始を挟み、その後報告数は下がりましたが、第4週26.89と再び増加しました。増加の主体は20歳未満の患者で、学級閉鎖も再増加しています。第4週の迅速キットの結果はA型が98.3%で、今シーズンはほとんどB型の増加がみられていません。流行の主体はいままで同様AH3亜型(A香港型)です。市内で検出された株では主な薬剤への耐性は確認されていません。予防にはワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策が重要です。

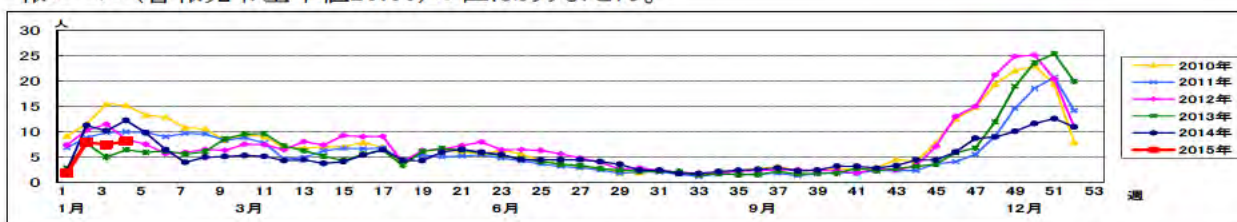
◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)



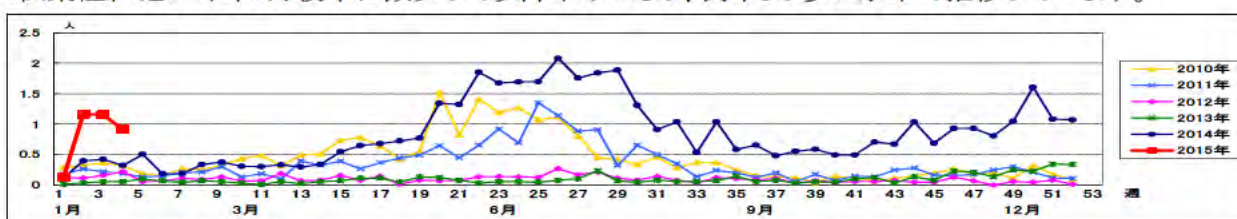
＜RSウイルス感染症＞第4週は市全体で定点あたり0.51と、今シーズンのピークである第50週1.11からは少なくなりましたが、例年よりやや多い傾向です。



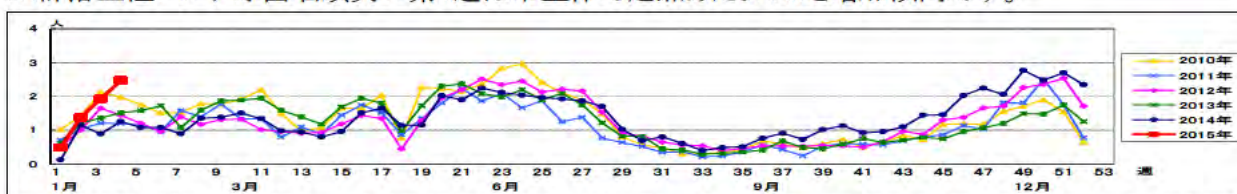
＜感染性胃腸炎＞今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少なく、第4週8.13で、区別にみても警報レベル(警報発令基準値20.00)の区はありません。



＜伝染性紅斑＞昨年8月後半に減少して以降下げ止まり、例年より多い水準で推移しています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞第4週は市全体で定点あたり2.47と増加傾向です。



＜性感染症＞12月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性10件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.33、第2週1.00、第3週1.00、第4週0.50となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第52週0.00、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.50、第4週0.25でした。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点23件、基幹定点1件、眼科定点3件で、定点外医療機関からは5件でした。

2月6日現在、表に示した各種ウイルスの分離株55例と遺伝子21例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	感 染 性 胃 腸 炎	ア デ ノ ウ イ ル ス 感 染 症	イン フル エン ザ 脳 症
アデノ NT		1	2			1	
インフルエンザ AH3型			49		3		2
パラインフルエンザ 2型			1				
パラインフルエンザ 3型		1	3				
パラインフルエンザ 4型		1					
RS		2		1			
ヒト メタニューモ		1					
ヒト コロナ	1						
ライノ		2	1				
ノロ					3		
サポ					1		
合計	1	8	49	1	4	1	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から5件、その他が1件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2)が検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科から6件、基幹定点から7件、その他が35件でした。A群溶血性レンサ球菌のうち6株(T1の3株とT28の3株)およびG群溶血性レンサ球菌2株の合計8株は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群、*Neisseria meningitidis*はY群でした。バンコマイシン耐性腸球菌はvanC2, 3遺伝子保有でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別	1月			2015年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	0	5	1	0	5	1
菌種名						
腸管出血性大腸菌			1			1
不検出	0	5	0	0	5	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別	1月			2015年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	6	7	35	6	7	35
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	1		3	1		3
T4	2			2		
T28	1		3	1		3
型別不能	2			2		
G群溶血性レンサ球菌			2			2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		4			4	
バンコマイシン耐性腸球菌		1			1	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
肺炎球菌		1	16		1	16
<i>Neisseria meningitidis</i>			1			1
百日咳			1			1
その他		1			1	
不検出	0	0	8	0	0	8

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリブシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】